

創立35周年記念同窓会「駿台プロレス」の対戦カードが決まりました。

『復活！駿台プロレス』

第一試合

『 菊タロー VS つぼ原人 』

「菊タロー」

身長167cm 体重105~111.1kg





得意技

「シャイニング菊ザード」…武藤敬司の必殺技そのもの。その後躊躇なく、お決まりの模擬・武藤ワールドを展開。

「シャイニングケンカキック」…蝶野正洋の必殺技そのもの。その後躊躇なく、お決まりの模擬・蝶野ワールドを展開。

…その他、ハンセン、ブッチャー、ジャンボ鶴田など、動きで見せる「ものまねレスラー」としてのコアなファン層を喜ばしている。

「恥ずかし固め」…主に女子レスラーとの対戦時に如何なく発揮するセクハラプレイ。…今回は校内での一戦なので…封印か？！

その他

「マイクパフォーマンス」「レスラーいじり」を得意とし、仮面レスラーであるにも関わらず興奮するとついついマスクを脱いでしまう癖もあり、ある意味予断を許さない「日本のコミカルレスラー」との呼び声が高い。

「つぼ原人」 身長・体重 不明



得意技

「バーミヤン・スタンプ」・・・顔面へのヒップドロップホールド。技名はつぼ原人が酔っぱらった際、生尻をガラス窓に押し付けたところ、ガラスに大手ファミレスチェーン「バーミヤン」のマークのような跡が残った出来事を機に命名。

その他

とにかくその容姿が物語るように、人類の進化の過程である原人がタイムスリップして現代のリングに登場したに違いない、はず。ゆえに野性味溢れる気性の荒いファイトには定評があるが、未開の世界からの刺客であるゆえ感情コントロールが効かないためか、場外乱闘の確率がとにかく多い。リングサイドの女性客の皆さまには、「菊タロー恥ずかし固め」と共に気を付けてもらいたい存在である。

この一戦は・・・

個性を持った両者の対戦は登場時からとにかく色々な意味で気の抜けない試合になることでしょう。自己アピール症候群傾向が強い、菊タローvs気性の荒い、つぼ原人。

「過去幾度か対戦し死闘を繰り広げているが…何が出るか、何が起こるか、全く想像がつきません。」



メインイベント

『 ベアー福田 ・ ヒロ斎藤 vs LEONA・ 藤波辰爾 』

「ベアー福田 ・ ヒロ斎藤 組」

ベアー福田 身長177cm 体重110kg



名前のごとく見るからに「ベアー(=熊)」であり怪力の持ち主。体力を活かしたパワー攻撃を得意とし、特にダイビングボディプレスを食らってはひとたまりもありません。その怪力はプロレス界だけに留まらず、「めっちゃ×2イケてるッ!」のコーナー「めっちゃギントン」に「太リーマン」役のリーダー的存在として出演し、数々の芸能人を戦闘不能、思考低下に陥れているほどだ。「・・・そう、あの人です。」

ヒロ斎藤 身長175cm 体重105kg



必殺技は「セイトーン」で後方へ回転しながらジャンプし、背面から落ちる危険な技。過去に何人ものレスラーの肋骨をへし折っている。「・・・これを食らうと、いくら藤波選手でも間違いなく危ない。」

前田日明の同期であり、伝説の「鬼軍曹」こと山本小鉄から地獄のシゴキを受けて育った最期の世代でもある。ゆえに強靱な肉体と確かなレスリング技術に裏打ちされた正攻法と、さらに「急所攻撃」や「顔面搔きむしり」「サミング(目潰し)」などのラフファイトを交わせ持つ器用さがあり、武藤敬司・蝶野正洋にも「ヒロさん」と慕われるプロレス界の実力者。(・・・余談ですが、元新日本プロレスのマサ斎藤選手とは、その風貌とリングネームから血縁関係であるという都市伝説が流れたが、本人は否定している。)

特にタッグマッチで行うリングサイドからの「足引き」は一世を風靡した蝶野正洋率いるnWoとT2000の一時代を支えた貴重な技であり、一気に試合のペースを掴んでしまう身体的・精神的ダメージの大きい技である。「…ヒロ選手がリングサイドに降りたら気を付けろ！」

対する

『 LEONA ・ 藤波辰爾 組』



本校同窓会において、まさかの親子タッグ決定！

「LEONA」 身長 173cm 体重 87kg



「その時、事件は起きた…衝撃デビュー直訴」

2012年4月20日、父・藤波辰爾はデビュー40周年記念大会を敢行。大河ドラマのような魑魅魍魎・紆余曲折の歴史を歩んだ新日本プロレス。

それぞれの道を歩んだスター軍団は各々の強力な個性ゆえ、業界では再会不可能と云われていた。

…しかし当日、リング上には、藤原喜明が流血で会場を沸かせ、蝶野正洋とヒロ斎藤は久々にT2000を結成しメインイベントに花を添えた。フィナーレでは、長州力が前田日明と手を取り合い、前田とタイガーまでもが肩擦り合わせ…最期まで公表出来ずにいた猪木までもが勢揃いした瞬間は場内騒然…いや発狂と言っていだらう…感涙者が続出していた。

各メディアは、その出来事を「金曜8時の奇跡」と報じ、藤波辰爾の実力と人柄を何よりも雄弁に物語り、昭和プロレスの熱が後楽園ホールに再現された至極のひと時であった。

…その時事件は起きた。

藤波辰爾の永遠の憧れである師匠・猪木のテーマ曲「炎のファイター」に導かれスター軍団が退散したその時…事件が起きてしまったのだ。

一見は百聞にしかず

「金曜8時の奇跡～LEONA直訴」の映像をご覧ください。

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=sw4KdCdYCI8

(映像を添付します。)

日本プロレス界は敗戦直後、力道山により誕生し日本人の心を捉え、2人のカリスマ・ジャイアント馬場とアントニオ猪木に受け継がれた。馬場さんの遺伝子はジャンボ鶴田に受け継がれるも、すでに終焉を迎えたのは痛恨の事実。

…藤波辰爾の遺伝子はもはや絶滅の迫った日本プロレス界最期の直径遺伝子なのだ。

おごれる人も久からず
唯春の夜の夢の如し

チャレンジング・スピリットを片手に、栄枯盛衰を繰り返したレスラー・藤波辰爾。レスラー・LEONAは、生まれながらに父の実直さに加え、猪木の哀愁までもを背負ってしまった唯一無二の存在である。

デビュー戦を決めたのは父・藤波辰爾ではなく、現世の甘えを排した冷徹な龍・藤波辰爾であった。

対戦相手は…藤波のかつての付き人、ザ・パンクラス船木誠勝。

容赦ない船木…LEONAデビュー映像…プロレスに七光り無し、あるのは試練とチャレンジだけだ！

http://www.youtube.com/watch?feature=player_embedded&v=L5ITdOEYCP4

(映像を添付します。)

藤波辰爾 身長185cm 体重108kg



『チャレンジングスピリッツ』

1953年12月28日大分県生まれ、現在還暦60歳。中学時代に後の師匠・アントニオ猪木に憧れ、プロレスラーを目指す。子供の頃は、争い事が苦手な喧嘩も出来ない少年であり、TVでのプロレス観戦も最初は家族の肩越しから怖々覗いていた程であった。内向的であった藤波少年は、次第に人生に於ける様々な感情をリング上で昇華させるアントニオ猪木の闘いに魅了されていく。当時は身体も細く、格闘技経験も無い中学3年生だった藤波少年は進路相談の時、担任の先生に「プロレスラー」になりたいと伝えるが「真面目に考えろ！」と怒られ相手にされず・・・が、密かに日本プロレスへ強そうな格好をした写真入り履歴書を何回も送っていた。・・・待てど暮らせど返答はなく、しかし次第に夢は広がっていき、進学せず1年間自動車整備士をしながらボディビルジムで身体を作る事を決める。・・・15歳からすでに本格的な「チャレンジングスピリット」が開花したとみて良いだろう。

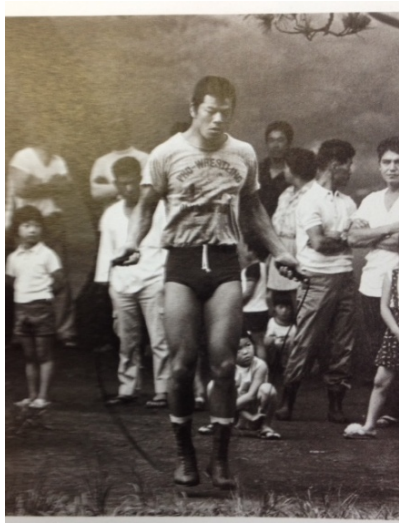
『プロレス入門』

日本プロレスの地元大分興業の際、同郷のプロレスラーである北沢幹之氏(唯一のジャイアント馬場とアントニオ猪木の付き人経験者)を頼り直談判し、そのまま巡業についていく。興業後、北沢が主要選手に藤波を紹介して回り「そうか、頑張れよ」と唯一声を掛けてくれたのは猪木であり、憧れの人付き人になる。・・・その後、波乱万丈を絵に書いたような猪木の人生に寄り添い、猪木引退まで猪木の元を離れなかった弟子は藤波辰爾と故山本小鉄の2人だけである。(北沢氏は猪木の前に引退)

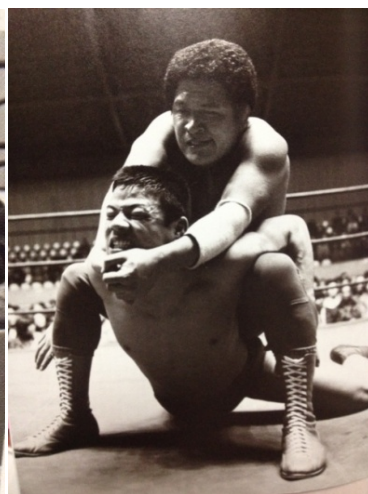


細身の藤波少年は最初誰からも1人前として扱われず、先輩達からの「かわいがり」にも耐えながらも、強くなるために猛練習に励む。猪木は自分の付き人への不当な扱いを許さず、藤波少年はたびたび猪木からお小遣いを貰っていた。

当時、日本プロレスのエースは馬場であり、名実共に馬場を超えたい猪木は強くなる事、実力至上主義に傾倒していく。練習の虫である「猪木派」は日本プロレス内の少数派であり、馬場への嫉妬と直接対決を要求する猪木は徐々に社内での煙たい存在になっていく。



日本プロレスの猪木追放の前日から不穏な空気が流れ、猪木へのリンチをも危ぶまれた。夜、藤波は自らの意思で猪木のロッカーから猪木の荷物をまとめて夜逃げを敢行・・・日本プロレスからの脅し・妨害を受けながらも、倍賞美津子と新婚であった猪木の新居を壊し、道場を建て「新日本プロレス」が誕生した。





『愛妻家』

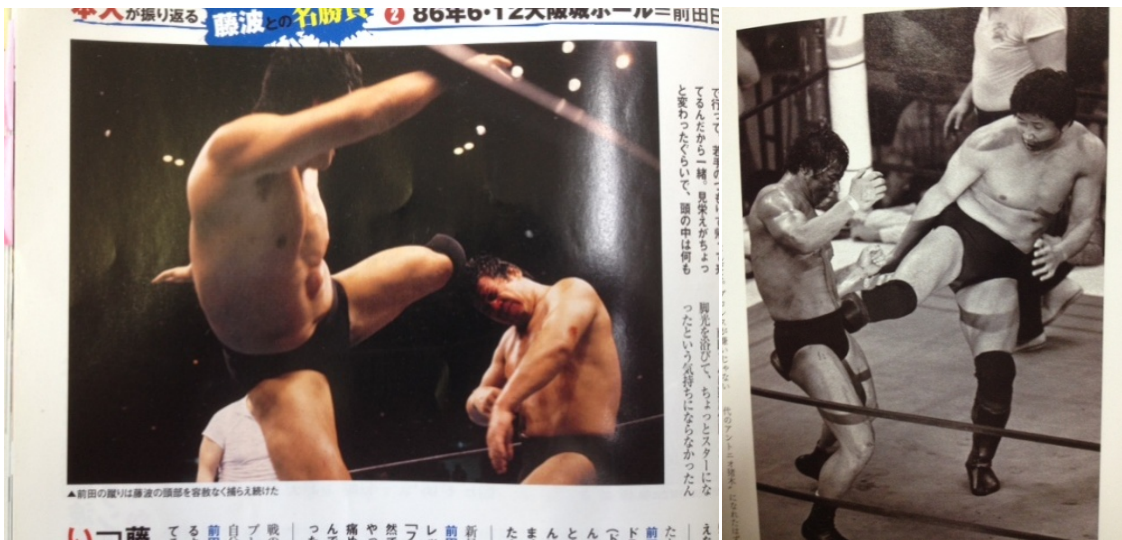


藤波さんの奥様は元ミス芦屋に選ばれた美女であり、観戦した試合で額から大流血した藤波さんを奥様がお見舞いをしたことが縁で結ばれる。
それが・・・

1978年宇田川市体育館vsチャボ・ゲレロ戦・・・血染めのコブラツイスト



・・・その後も伝説の大流血戦では
1986年大阪城ホールvs前田日明戦・・・壮絶両者KO。

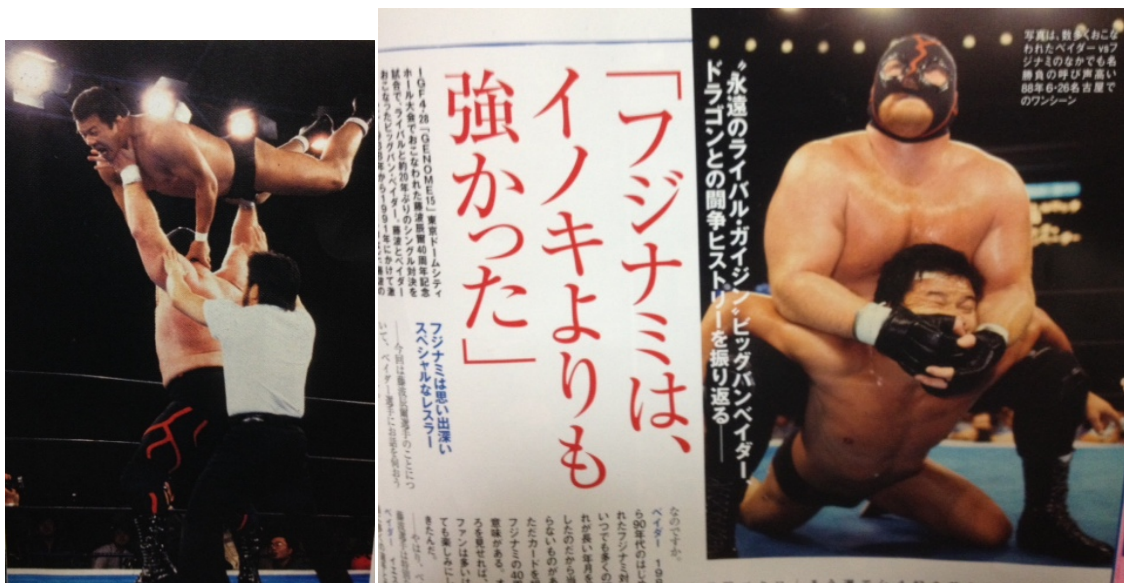


1996年東京ドームvs天龍源一郎戦・・・ドラゴン・ロケット3連発目に天龍のゲーパンチがカウンターで入り、鼻骨骨折。



奥様は偶然観戦しています。

- 格闘王・前田日明曰く、「藤波さんの身体能力は半端なかった。多分他の競技をしていても成功していただろう・・・最後の本格派ストロングスタイルレスラーである。」と公言
- 天龍源一郎曰く、「藤波辰爾にあんなきれいなカーチャンがいるってことが・・・世の中の男たちに夢を与えている」と公言。
- 結婚当時の藤波さんは、海外の遠征先からでさえも日に幾度も電話を掛け、奥様が外出することを決して許さなかった。
- 現在奥様は藤波さんのプロレス団体であるドラディションの代表を務め、公私共に藤波さんを支える。
- 1989年のベイダー戦では腰を負傷し引退も囁かれた。当時は24時間激痛が走り、自殺さえ考えた藤波さんと対峙したことで「本物の夫婦」になれたとの事。



『パイオニア』

藤波さんは1976年、マディソンスクエアガーデンでWWWFジュニアヘビー級のチャンピオンになり凱旋帰国した。当時のレスラーが無頼漢や乱暴者のイメージが強い中、ビルドアップされた筋肉隆々な肉体と精悍なマスク、爽やかな雰囲気から繰り出すドラゴン殺法で瞬く間にドラゴンブームを巻き起こし、プロレスへの女性ファンを開拓し、当時のアリ戦で膨大な借金を抱えていた猪木を多いに支えた。



●後にジュニアヘビー級チャンピオンとして全国のプロレスファンを魅了した初代タイガーマスク曰く「藤波さんあってのジュニアヘビー級、藤波さんがいなければ今の私は無い」と公言。

メインイベントの見どころは、

なんといってもパワーに勝るベアー福田・ヒロ斎藤組が、容赦ないパワープレイを仕掛けてくる危険性があります。LEONA・藤波辰爾組はパワープレイに付き合わず、正攻法で試合を組み立てたいところでしょうが、一瞬の隙をついてくるヒロ斎藤選手の金的攻撃やサミング、足引きに注意したい。さらにヒロ組は経験の浅いLEONAを標的にしてくることも予想され、ラフファイトからのセイトーン、ダイビングボディプレス

などの大技は、なんとしても防ぎたいところでしょう。

そして何よりも「ベアー・福田・ヒロ斎藤 vs LEONA・藤波辰爾」戦は

…同窓生主催ではあり得ない対戦カードであり、プロレスファンなら一度
は見たい！後楽園ホール満員札止め必至のカードである！

…俺たち、私達の同窓会は、開催前に伝説になり始めてしまった！

11月1日(土)駿台甲府高等学校体育館……………乞うご期待！！

相手の出方を探りながら…



リック・フレアー、天龍源一郎、橋本真也らフォールした「ドラゴン・コブラツイスト」か



ここは、古典的な「四の字固め」、「逆サソリ」でギブアップを狙うのか、



怒涛の攻撃を耐え忍び、一瞬の隙に「ドラゴン・スクリュウ」をはなてるのか、



はたまた、「ドラゴン・スリーパー(飛龍裸絞め)」に持ち込めるのか、



・・・ゴングが鳴るまで、いかなる攻防に及ぶのか想像が募るばかりです。

では皆さん、11月1日(土)は駿台甲府高等学校体育館でお会いしましょ

う♪♪